

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：あいせん保育園	種別：認可保育園
代表者氏名：七條泰恵	定員（利用人数）： 70名(76名)
所在地：〒210-0851 川崎市川崎区浜町2-22-16	
TEL：044-344-5365	ホームページ： <a href="https://www.kanagawa-swc.com/aisenkinder/">https://www.kanagawa-swc.com/aisenkinder/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和40年（1965年）12月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団	
職員数	常勤職員： 16 名 非常勤職員 13 名
専門職員	（専門職の名称） 名 園長 1名
	保育士 22名 看護師 1名
	栄養士 2名 調理員 1名
施設・設備の概要	（居室数） 6室 （設備等）
	事務室（兼保健室）、厨房、調乳室、沐浴室、乳児用・幼児用トイシ、多目的トイシ、休憩室、倉庫など

③理念・基本方針

- 保育方針 ～未来を創る子どもたちのために・・・～  
「豊かな実体験を通して心を育む保育」  
「子育てを共に考え見つめ合う保育」  
「地域に開かれ共に育ち合う保育」
- 保育目標 ♪意欲のある子ども  
♪自分らしさを発揮できる子ども  
♪自分も友達も大切にできる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

開設して58年の歴史がある保育園として歴史がありながらも、平成26年に園舎の立て替えを期に川崎市では初めての保育園、児童養護施設、児童家庭支援センターが合築した「総合児童福祉施設あいせん」として新たなスタートを切る。  
地域としては下町的な所もあることと、多国籍の家庭も毎年入所している。地域からも長年の繋がりがあることもあり、引き続き理解を得られるよう努力していきたい。  
低所得家庭、母子家庭、連携機関との関わりのある家庭もあり、保護者支援が必須なケースも多い。  
70名定員ということで、こじんまりとした家庭的な保育を大切にしている。子どもたちが日々の生活の中で実体験を重ねていき、主体性が育まれるよう自己肯定感を高められる保育を大切にしている。  
正規職員の離職率が低く、経験年数の比較的バランスとれているためか、職員同士の

コミュニケーションも図れている。非常勤職員は正規職員より経験年数が多く保育の安定に繋がっている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年 6月 20日（契約日） ～ 2024年 1月 23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

**◆生活と遊びを豊かにする保育の取組の中で子どもたちは主体的に活動しています**

園は70名定員という少ない人数ならではの、温かみのある家庭的な保育が大きな特徴です。職員は個々の子どもの状況を共通認識して対応するために、午睡時などを使用して常にクラス間で話し合っています。職員同士が声を掛け合って、一人ひとりの子どもの思いに寄り添った保育を行うよう配慮しています。子どもの興味に合わせて、玩具を入れ替え、やりたいことが出来る環境を作ることによって子どもが自発的に遊びを選んでいきます。また、自由遊びの時間は室内か園庭かを選択できるようにして、子どもの気持ちを汲み取りながら対応しています。更に、園長は職員がしたい保育ができるようバックアップすることを伝えていて、職員は主任に相談しながら夏フェスティバルやクリスマスマーケットなどの楽しい活動が実現できるよう取組んでいます。幼児クラスでは、行事に向けて子どもの意見を取り入れた取組の中で、友だちと協力する大切さ、喜びを共有する嬉しさの体験を積み重ねています。職員は、子どもの気持ちを引き出し、思いを受け止めるようにし、話し合う機会を多く設けて、行事後は楽しかったことなどを一人も残さずに発信する機会を作っています。

**◆異年齢の交わりにより、子どもの将来育つ姿が見える援助をしています**

園長は、子ども達が楽しい気持ちで保育園に来て、明日も友達と一緒に遊びたいと思える保育園にしたいと考えています。また、園は担任交換研修を行い、担当クラスの前後のクラスに入り、保育士自身が子どもの発達段階を知ることによって、長期的な視野を持って保育の連続性を意識した保育を実施できるようにしています。園庭での戸外遊びでは、ほとんどのクラスが同時に遊ぶこともあります。2歳児が砂場脇のテーブルにシャベルでお皿に砂を盛っていると、3歳児が「食べていいですか」と寄ってきておままごとが始まり、保育士の仲立ちで名前を教え合っています。0歳児が園庭に出てくると4、5歳児が自然と危険の無いように配慮している様子が見受けられます。更に、幼児クラスは当番活動などを通じて年長児の活動を知ることができます。園は、日々の保育や誕生会、行事など異年齢で関わる機会も多く、年上の子どもは年下の子どもを慈しみ、年下の子どもは年上の子どもに憧れて、大きくなった時の育つ姿を具体的に知ることが出来ます。このような、日々の取組の中、子どもは、楽しく自発的に活動しています。

**◆組織として、園の方針を徹底していく仕組み作りが望まれます**

園は、職員同士が声を掛け合って、一人ひとりの子どもの思いに寄り添った保育を行う体制があります。また、職員間も風通しが良く、上司に相談しやすいという意見があります。一方、指導計画について非常勤職員は計画の作成に直接かかわっていないため、日頃の様子を把握しにくいという声や、様々な子どもの思いの全てを叶えることの難しさを感じる時があるという声もあります。園長が日々、職員に伝えている思いや「子どもの人権」など様々な研修を実際の保育に活かし、人権に配慮して互いが高め合うなど、園長のリーダーシップのもと組織的に、子どもの人権に配慮した、

思いを汲み取る取組が期待されます。また、これを機会に正規職員、非常勤職員も含めた全職員に十分に周知し、職員間で話し合い、日常の保育の中で助言しあえる関係づくりが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

あいせん保育園では子ども達の主体性を育む保育を第一として日々取り組んできました。自己評価を行う中で保育観はそれぞれありますが、園に関して、子どもに対して、保護者に対しての振り返りを客観的に把握することができました。評価結果、保護者や職員のアンケート結果を踏まえて今後も組織として園の方針が浸透していけるよう、正規職員・有期職員と共有を図りながら取り組んでいきたいと思えます。そして利用者様、地域の皆様から信頼を得られる努力を重ね、「子ども達が明日も行きたい保育園」として透明性のある運営を目指していきたいと思えます。ご協力いただいた保護者の皆様、調査と評価をしていただきました評価機関に感謝いたします。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり